

富田林市文化財調査報告 78

令和 4 年度

富田林市内遺跡群発掘調査報告書

2023. 3

富田林市教育委員会

例 言

1. 本書は、令和4年度国庫補助事業「市内遺跡緊急発掘調査事業」の報告書である。
2. 本事業は、富田林市教育委員会文化財課が、令和4年4月1日から令和5年3月31日にかけて実施した。
3. 令和4年度整理作業については、同課職員 角南辰馬・林 正樹、同課非常勤職員 西村雅美・渡邊晴香が担当した。
4. 本書の執筆・編集は渡邊が行った。
5. 本報告書に掲載している出土遺物、図面、写真などの資料はすべて本市教育委員会が保管・管理している。
6. 本報告書の出土遺物の整理作業にあたっては、近藤康司氏（堺市 文化財課）から有益なご教示を得た。感謝の意を表したい。
7. 発掘調査にあたっては土地所有者をはじめ、関係者各位のご理解とご協力を得た。ここに併せて感謝の意を表したい。

凡 例

1. 本書で使用する標高は、東京湾標準潮位（T. P.）で表示している。
2. 現地調査における土色の色調は『新版標準土色帖』（小山正忠・竹原秀雄1970）を使用した。
3. 出土遺物実測図は土器類S=1/4、瓦類S=1/5で掲載している。
4. 引用・参考文献は巻末に示した。

目 次

第1章 令和4年の調査状況	1
第2章 錦織廃寺・錦織遺跡（NHJ2021-1）の調査	5
第1節 調査の経緯と経過	5
第2節 調査方法	6
第3節 調査の成果	6
1) 基本層序	6
2) 出土遺物	8
3) まとめ	15
報告書抄録	

挿 図 目 次

図1 細井廃寺拡大範囲	3
図2 市内遺跡分布図	4
図3 調査位置図	5
図4 調査区配置図	6
図5 壁面柱状図・断面図	7
図6 出土遺物実測図（1）	8
図7 出土遺物実測図（2）	9
図8 出土遺物実測図（3）	10
図9 出土遺物実測図（4）	11
図10 出土遺物実測図（5）	12
図11 出土遺物実測図（6）	13
図12 出土遺物実測図（7）	14
図13 出土遺物実測図（8）	15

表 目 次

表1	発掘届（通知）受理件数	1
表2	発掘調査一覧	2
表3	試掘調査一覧	2
表4	掲載遺物一覧	16

写 真 目 次

写真1	細井廃寺調査地遠景（南西より）	3
写真2	細井廃寺調査地全景（写真左が北）	3
写真3	錦織廃寺・錦織遺跡調査東西区瓦出土状況（北より）	3
写真4	錦織廃寺・錦織遺跡調査南北区瓦出土状況（北東より）	3

図 版 目 次

図版1	錦織廃寺・錦織遺跡（NHJ2021-1） 上：南北区Ⅱ層上面（南より） 下：東西区Ⅱ層上面（東より）
図版2	錦織廃寺・錦織遺跡（NHJ2021-1） 上：東西区東端深掘り地層断面（北より） 下：南北区深掘り地層断面（東より）
図版3	錦織廃寺・錦織遺跡（NHJ2021-1） 上：北東区Ⅱ層上面（西より） 下：北東区東壁断面（西より）
図版4	錦織廃寺・錦織遺跡（NHJ2021-1） 出土遺物

第1章 令和4年の調査状況

令和4年1月から12月までの1年間における、文化財保護法第93条（民間開発）・94条（公共工事）に基づく発掘届・発掘通知等の受理件数と、その対応については表1のとおりである。このうち、民間開発に伴う発掘届出件数は94件、発掘通知件数は24件で、合わせて118件を受理した。昨年の発掘届出・発掘通知件数は186件であり、約70件減少している。

このうち、民間開発に伴う発掘届出件数は昨年と比べて76件と大幅に減少している。届出原因別の増減をみると、個人住宅・分譲住宅が46件減っており、住宅に関わるガスや電気もそれに伴って減少している。これらについては、ここ数年続いた宅地造成に伴う住宅工事関連の届出の増加が落ち着いたためと考えられる。

これらの届出を受けて行われた発掘調査は22件で、去年とほぼ同数である。そのうち民間の開発による本調査は5件、公共工事による本調査は1件である。また、埋蔵文化財包蔵地外での試掘調査については11件実施した。

本年は埋蔵文化財包蔵地外での試掘調査による遺跡の新規発見はなかった。しかし、民間開発に伴う細井廃寺の調査（表2-16）では、細井廃寺の範囲外にも遺跡が広がっていることを確認したため、既存範囲の北側へ大きく範囲拡大を行った（図1）。

本書では、令和4年2月に令和3年度国庫補助事業として実施した錦織廃寺・錦織遺跡（表2-2、第2章）の調査について報告する。

表1 発掘届（通知）受理件数

	発掘届出（93条）						発掘通知（94条）						合計
	事前	立会	慎重	遺憾	進達	小計	事前	立会	慎重	遺憾	進達	小計	
道路	0	0	0	0	0	0	0	0	6	0	0	6	6
宅地造成	3	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	3
個人住宅	3	33	5	2	0	43	0	0	0	0	0	0	43
分譲住宅	0	5	1	0	0	6	0	0	0	0	0	0	6
共同住宅	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
店舗	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
その他建物	5	5	0	0	0	10	2	0	1	0	0	3	13
公園造成	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	1
ガス	0	0	26	0	0	26	0	0	0	0	0	0	26
電気	0	0	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0	2
水道	0	0	0	0	0	0	1	1	2	0	0	4	4
下水道	0	0	0	0	0	0	0	6	4	0	0	10	10
電話通信	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
その他開発	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
小計	13	43	36	2	0	94	3	8	13	0	0	24	118

表2 発掘調査一覧

番号	調査日	所在地	遺跡名	調査原因	調査面積	調査結果	担当者	備考
1	R4/1/26	錦織北三丁目	鐘屋遺跡	学校	6.8㎡	遺構・遺物無	渡邊	
2	R4/2/7~2/17	錦織東二丁目	錦織庚寺・鐘屋遺跡	個人住宅	32.1㎡	遺構・遺物有	渡邊	本報告書掲載NHJ2021-1
3	R4/2/22	中野町二丁目	中野北遺跡	共同住宅	1.6㎡	遺構・遺物無	林	
4	R4/2/24~4/4	中野町三丁目	喜志城跡・中野北遺跡	宅地造成	131.0㎡	遺構・遺物有	渡邊	本調査KSC2021-1
5	R4/3/4	中野町三丁目	中野北遺跡	個人住宅	5.2㎡	遺構・遺物無	西村	
6	R4/3/7~3/8	中野町一丁目	中野遺跡・中野北遺跡	店舗	29.9㎡	遺構・遺物有	西村・林	
7	R4/3/8	富田林町	富田林寺内町遺跡	個人住宅	1.7㎡	遺構・遺物無	角南	
8	R4/6/23	甲田一丁目	甲田遺跡・東高野街道	宅地造成	15.7㎡	遺構・遺物有	西村・林	14の事前調査
9	R4/6/24	錦織東一丁目	鐘屋遺跡	その他建物	1.8㎡	遺構・遺物有	角南	13の事前調査
10	R4/7/7~9/29	若松町一丁目	畑ヶ田遺跡	その他建物	329.0㎡	遺構・遺物有	渡邊	本調査HD2022-1
11	R4/7/15	喜志町三丁目	喜志西遺跡	その他建物	10.2㎡	遺構無・遺物有	林	
12	R4/8/9	西坂持町七丁目	西坂持遺跡	その他建物	4.0㎡	遺構・遺物無	角南	
13	R4/8/19~9/2	錦織東一丁目	鐘屋遺跡	その他建物	35.5㎡	遺構・遺物有	角南	9の本調査NK2022-1
14	R4/8/22~10/21	甲田一丁目	甲田遺跡・東高野街道	宅地造成	219.0㎡	遺構・遺物有	西村	8の本調査KD2022-1
15	R4/9/6	昭和町二丁目	新堂遺跡	その他建物	3.0㎡	遺構・遺物無	渡邊	
16	R4/9/12~11/10	錦織北二丁目	細井庚寺	店舗	995.0㎡	遺構・遺物有	林	本調査HSY2022-1
17	R4/10/26	甲田二丁目	甲田遺跡	宅地造成	6.0㎡	遺構・遺物無	渡邊	
18	R4/10/27	喜志町五丁目	喜志西遺跡	宅地造成	12.0㎡	遺構・遺物無	渡邊	
19	R4/11/4	中野町二丁目	中野北遺跡	宅地造成	3.6㎡	遺構無・遺物有	角南	
20	R4/12/12	宮町二丁目	栗ヶ池西遺跡	店舗	2.9㎡	遺構・遺物無	渡邊	
21	R4/12/6	甲田二丁目	甲田遺跡	共同住宅	9.2㎡	遺構・遺物有	西村	
22	R4/12/19	錦織東三丁目	鐘屋南遺跡	その他建物	23.0㎡	遺構・遺物無	角南	

表3 試掘調査一覧

番号	調査日	所在地	調査原因	調査面積	調査結果	担当者
1	R4/3/15	甲田一丁目	その他建物	6.0㎡	遺構・遺物無	林
2	R4/2/1	谷川町	共同住宅	7.0㎡	遺構・遺物無	西村
3	R4/6/2	若松町西一丁目	共同住宅	8.6㎡	遺構無・遺物有	西村
4	R4/6/14	若松町西二丁目	共同住宅	1.9㎡	遺構・遺物無	西村
5	R4/9/6	大字佐備	個人住宅	—	遺構・遺物無	林
6	R4/9/27	中野町東一丁目	その他建物	4.8㎡	遺構・遺物無	渡邊
7	R4/11/4	清水町	宅地造成	10.0㎡	遺構・遺物無	西村
8	R4/11/15~16	若松町西一丁目	共同住宅	21.0㎡	遺構無・遺物有	渡邊
9	R4/12/5	鐘織中一丁目	その他建物	3.6㎡	遺構・遺物無	西村
10	R4/12/27	北大伴一丁目	宅地造成	2.0㎡	遺構・遺物無	角南
11	R4/12/27	北大伴一丁目	宅地造成	2.7㎡	遺構・遺物無	角南

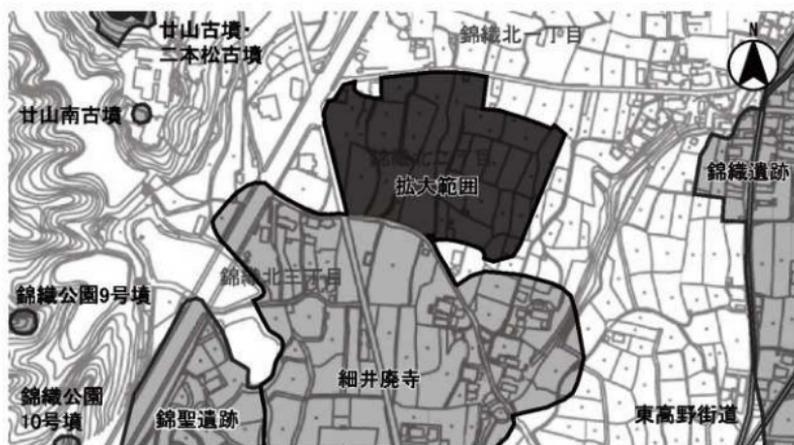


図1 細井廃寺拡大範囲



写真1 細井廃寺調査地遠景（南西より）



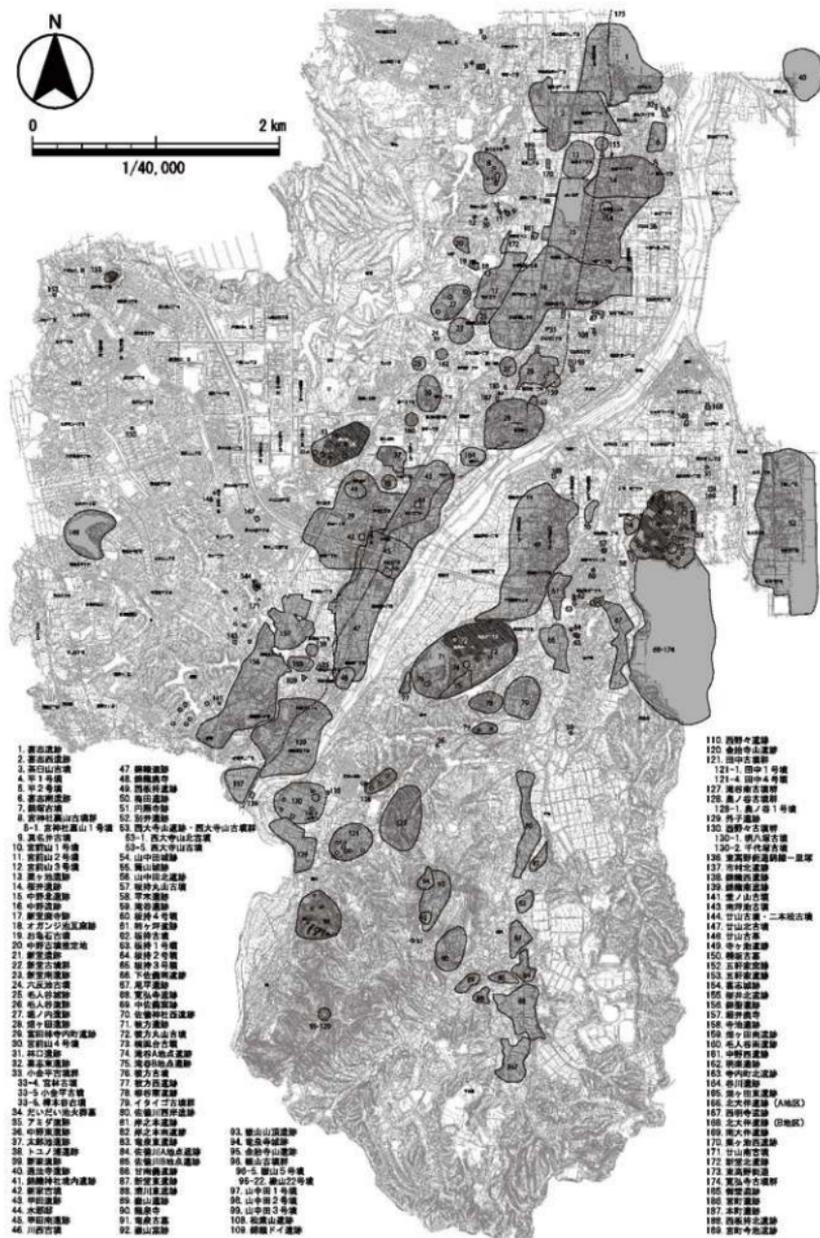
写真2 細井廃寺調査地全景（写真左が北）



写真3 錦織廃寺・錦織遺跡調査
東西区瓦出土状況（北より）



写真4 錦織廃寺・錦織遺跡調査
南北区瓦出土状況（北東より）



1. 原田遺跡
2. 原田西遺跡
3. 赤石山古墳
4. 甲ノ台古墳
5. 甲ノ寺古墳
6. 宮内遺跡
7. 網野古墳
8. 宮神社山古墳群
9. 高尾井古墳
10. 宮前山1号墳
11. 宮前山2号墳
12. 宮前山3号墳
13. 宮ノ池遺跡
14. 柳井遺跡
15. 中野北遺跡
16. 中野南遺跡
17. 柳井遺跡
18. オアシノ池瓦葺跡
19. 赤石山古墳
20. 柳井遺跡
21. 柳井遺跡
22. 柳井遺跡
23. 柳井遺跡
24. 穴ノ池古墳
25. 穴ノ池古墳
26. 穴ノ池古墳
27. 堀ノ内遺跡
28. 堀ノ内遺跡
29. 堀ノ内遺跡
30. 宮前山4号墳
31. 宮前山遺跡
32. 赤石山遺跡
33. 赤石山遺跡
34. 赤石山遺跡
35. 赤石山遺跡
36. 赤石山遺跡
37. 赤石山遺跡
38. 赤石山遺跡
39. 赤石山遺跡
40. 赤石山遺跡
41. 赤石山遺跡
42. 赤石山遺跡
43. 赤石山遺跡
44. 赤石山遺跡
45. 赤石山遺跡
46. 赤石山遺跡
47. 赤石山遺跡
48. 赤石山遺跡
49. 赤石山遺跡
50. 赤石山遺跡
51. 赤石山遺跡
52. 赤石山遺跡
53. 赤石山遺跡
54. 赤石山遺跡
55. 赤石山遺跡
56. 赤石山遺跡
57. 赤石山遺跡
58. 赤石山遺跡
59. 赤石山遺跡
60. 赤石山遺跡
61. 赤石山遺跡
62. 赤石山遺跡
63. 赤石山遺跡
64. 赤石山遺跡
65. 赤石山遺跡
66. 赤石山遺跡
67. 赤石山遺跡
68. 赤石山遺跡
69. 赤石山遺跡
70. 赤石山遺跡
71. 赤石山遺跡
72. 赤石山遺跡
73. 赤石山遺跡
74. 赤石山遺跡
75. 赤石山遺跡
76. 赤石山遺跡
77. 赤石山遺跡
78. 赤石山遺跡
79. 赤石山遺跡
80. 赤石山遺跡
81. 赤石山遺跡
82. 赤石山遺跡
83. 赤石山遺跡
84. 赤石山遺跡
85. 赤石山遺跡
86. 赤石山遺跡
87. 赤石山遺跡
88. 赤石山遺跡
89. 赤石山遺跡
90. 赤石山遺跡
91. 赤石山遺跡
92. 赤石山遺跡

93. 赤石山遺跡
94. 赤石山遺跡
95. 赤石山遺跡
96. 赤石山遺跡
97. 赤石山遺跡
98. 赤石山遺跡
99. 赤石山遺跡
100. 赤石山遺跡
101. 赤石山遺跡
102. 赤石山遺跡
103. 赤石山遺跡
104. 赤石山遺跡
105. 赤石山遺跡
106. 赤石山遺跡
107. 赤石山遺跡
108. 赤石山遺跡
109. 赤石山遺跡
110. 赤石山遺跡

110. 赤石山遺跡
111. 赤石山遺跡
112. 赤石山遺跡
113. 赤石山遺跡
114. 赤石山遺跡
115. 赤石山遺跡
116. 赤石山遺跡
117. 赤石山遺跡
118. 赤石山遺跡
119. 赤石山遺跡
120. 赤石山遺跡
121. 赤石山遺跡
122. 赤石山遺跡
123. 赤石山遺跡
124. 赤石山遺跡
125. 赤石山遺跡
126. 赤石山遺跡
127. 赤石山遺跡
128. 赤石山遺跡
129. 赤石山遺跡
130. 赤石山遺跡
131. 赤石山遺跡
132. 赤石山遺跡
133. 赤石山遺跡
134. 赤石山遺跡
135. 赤石山遺跡
136. 赤石山遺跡
137. 赤石山遺跡
138. 赤石山遺跡
139. 赤石山遺跡
140. 赤石山遺跡
141. 赤石山遺跡
142. 赤石山遺跡
143. 赤石山遺跡
144. 赤石山遺跡
145. 赤石山遺跡
146. 赤石山遺跡
147. 赤石山遺跡
148. 赤石山遺跡
149. 赤石山遺跡
150. 赤石山遺跡
151. 赤石山遺跡
152. 赤石山遺跡
153. 赤石山遺跡
154. 赤石山遺跡
155. 赤石山遺跡
156. 赤石山遺跡
157. 赤石山遺跡
158. 赤石山遺跡
159. 赤石山遺跡
160. 赤石山遺跡
161. 赤石山遺跡
162. 赤石山遺跡
163. 赤石山遺跡
164. 赤石山遺跡
165. 赤石山遺跡
166. 赤石山遺跡
167. 赤石山遺跡
168. 赤石山遺跡
169. 赤石山遺跡
170. 赤石山遺跡
171. 赤石山遺跡
172. 赤石山遺跡
173. 赤石山遺跡
174. 赤石山遺跡
175. 赤石山遺跡
176. 赤石山遺跡
177. 赤石山遺跡
178. 赤石山遺跡
179. 赤石山遺跡
180. 赤石山遺跡
181. 赤石山遺跡
182. 赤石山遺跡
183. 赤石山遺跡
184. 赤石山遺跡
185. 赤石山遺跡
186. 赤石山遺跡
187. 赤石山遺跡
188. 赤石山遺跡
189. 赤石山遺跡

図2 市内遺跡分布図

第2章 錦織廃寺・錦織遺跡（NHJ2021-1）の調査

第1節 調査の経緯と経過（図3）

今回の調査地は錦織廃寺及び錦織遺跡の範囲に該当し、石川西岸の河岸段丘低位面に位置する。

錦織廃寺は、平安時代の軒丸瓦が採集されたことにより古代寺院と認識されている。また、以前は基壇状の高まりが近辺にあったとのことだが、現在では判然としない（富田林市史編集委員会1985）。しかし、埋蔵文化財包蔵地としての錦織廃寺の範囲においては、広い面積での本調査こそはないものの、事前確認調査や立会調査にて古代の瓦が確認されている。

この他、西へ500mには細井廃寺があり、こちらも寺院の存在を示す直接的な遺構等は確認されていないが、1984年の大阪府教育委員会の発掘調査では、鷗尾や埴を含む大量の瓦が出土している（大阪府教育委員会1985）。

また、調査地北側隣接地での共同住宅建設に伴う事前確認調査では、現代耕土直下より多くの瓦片が確認されており、盛土を施した工事へと設計の変更が行われている。

今回の調査は、個人住宅の建設に伴う事前調査である。工事は擁壁工事を行った上で盛土をし、住宅を建設する予定となっている。上記の様に隣接地での遺跡の状況から、今回の工事で計画されている擁壁工事については遺跡に影響を及ぼす可能性が想定された。また、建物基礎

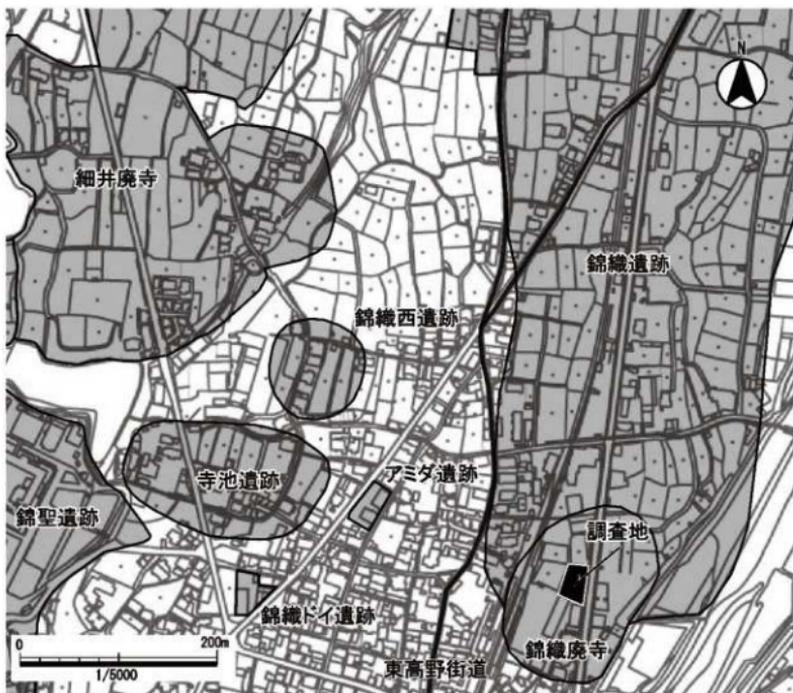


図3 調査地位置図

はベタ基礎が予定されているが、杭工事が想定されているということで、遺跡への影響を確認する必要が出た。そのため、擁壁部分と建物予定範囲についてトレンチを設定し、事前確認調査を行うこととした。擁壁部分の調査については、現在使用中の水路への影響を考慮し、東西辺と南北辺の南側2/3までを調査範囲とした。調査は令和4年2月7日より開始し、2月17日に終了した。

第2節 調査方法 (図4・5)

前述したように、調査は擁壁工事の予定されている東西辺 (以下東西区) と南北辺 (以下南北区) と合わせて建物範囲の北東部分 (以下北東区) にトレンチを設定した。東西区は0.7m×15.3m (10.7㎡)、南北区は0.7m×18m (12.6㎡)、北東区は2.5m×3.5m (8.8㎡) の合計32.1㎡である。

東西区と南北区では擁壁の基礎が入る予定最大深度 (GL-0.3~0.45m) まで調査を行った。

両地区は申請地の西側と南側の遺跡の状況確認のために、3カ所で深掘りトレンチを設定した (図5右上図参照)。いずれの場所でも、IV層とした地層以下は湧水が認められ、V層を超えると湧水量が増加した。東西区・南北区ではVII層上面で、北東区はGL-1.3mで調査を終了した。いずれも湧水による壁面の崩落と、工事への影響を考慮したためである。

第3節 調査の成果

1) 基本層序 (図5、図版1~3)

基本層序については、北東区を中心に見ていきたい (図5下、図版3下)。

I層は現代耕作土と床土 (厚さ0.15m) で、このI層以下の地層では古代~中世の瓦を含んだ地層となる。

II層 (厚さ15cm) は瓦片と礫が多く含まれた砂質土で、瓦片は10cm前後と小さく、著しく摩耗している。II層からは中世~17世紀代の遺物が出土しているが、特に南北区南側でのみ近世の遺物が出土している。東西区では、II層上面で鋤溝を検出した (図版1下)。この鋤溝埋土はI層のものとは異なることから、I・II層間にはさらに耕作土があったものが削平されていると考えられる。この鋤溝は東西区のみで確認しており、南北区・北東区では確認していない。

III・IV層 (厚さ10cm) は灰黄色の地層で、瓦片の大きさはV~VII層に比べると小さい。III層以下からの出土遺物は瓦を除くとほとんど無く、須恵器と土師器の細片のみである。

V層 (厚さ10cm) は、II~IV層と異なり、粘質へと変化し、水分がにじみ出てくる。瓦の出土数量は少なくなったものの、瓦片の大きさはIV層までよりも大きくなる。

VI層 (厚さ15cm) ・VII層 (厚さ10cm) は含まれる礫が最大人頭大となる。湧水が激しくなる。

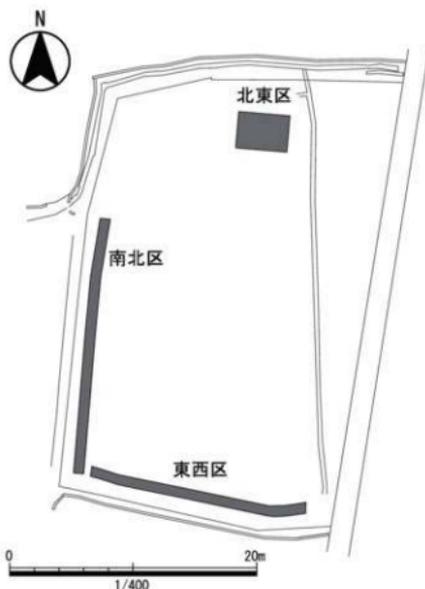
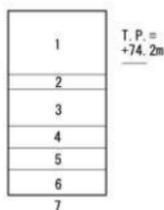


図4 調査区配置図

南北区



〔土色〕南北区土色

I層1：耕作土

II層2：床土

III層3：5Y4/1 灰色瓦礫を多く含んだ砂質土層
(瓦・土器多く含む。)

IV層4：2.5Y4/2 灰オリーブ色粘性を持つ粗砂層

V層5：10YR4/2 灰黄褐色粗砂を含んだ粘質土層

VI層6：10YR5/2 灰黄褐色粗砂礫層

VII層7：2.5Y4/1 黄灰色粗砂礫層

東西区中央 東西区東端



〔土色〕東西区土色

I層1：耕作土

II層2：床土

III層3：2.5Y4/2 灰オリーブ色粗砂を多く含んだ砂質土層
(鉄分多く、遺物少し含む。)

IV層4：5Y4/1 灰色粗砂を多く含んだ粘質土層
(鉄分少し含む。)

V層5：5Y4/1 灰色粗砂礫層

VI層6：2.5Y4/3 オリーブ褐色砂礫混粘質土層
(人頭大の礫を含む。)

VII層7：2.5Y4/1 黄灰色砂礫を含む粘質土層



北東区

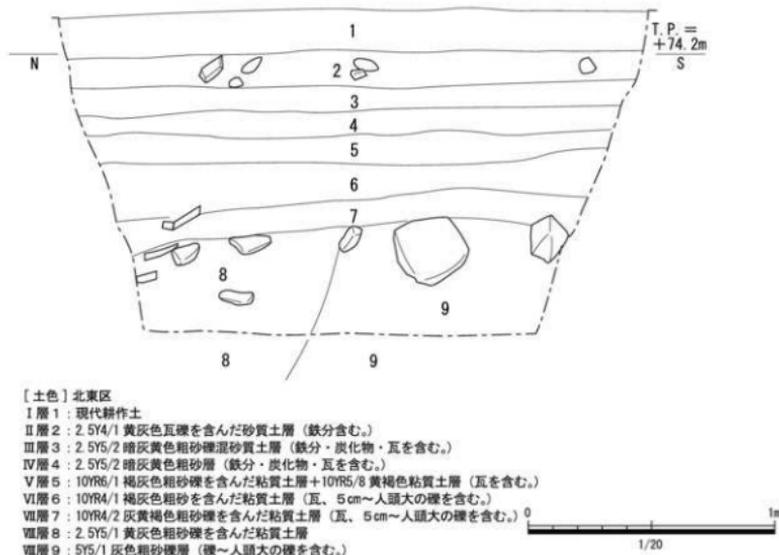


図5 壁面柱状図・断面図

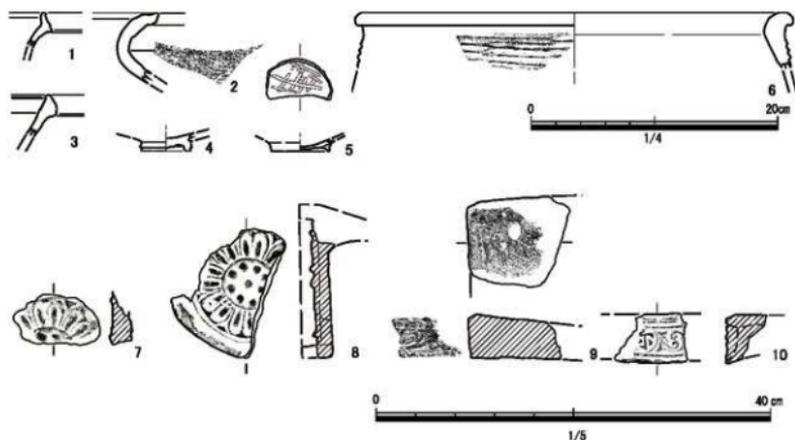


図6 出土遺物実測図(1)

瓦片はさらに大きなものも含まれ、全体の1/2以上残存するものも含まれる。

Ⅷ層(厚さ40cm以上)は図5-北東区8・9層で前後関係が認められるが平面上は湧水が著しく、地層の変わり目は平面で確認できなかつた。図5-8層の上層では瓦片を確認したが、上位のⅧ層から押し付けられたものの可能性も残る。

遺構検出はⅧ層上面まで行い、調査は終了した。Ⅷ層の層厚はもちろんだが、地山層の確認はできなかった。Ⅰ層を除くすべての地層から瓦片が多く出土しており、整理前でコンテナ18箱出土している。

2) 出土遺物(図6~13、図版4、表4)

出土遺物の大半は瓦が占め、土器類は極わずかであった。土器類で図化したものは、須恵器(1・2)、瓦器(5)、東播系須恵器(3)、土師質土器(6)、肥前系陶器(4)である(図6)。

瓦は奈良~平安時代のものが大半であるが、中に1点、Ⅱ層から出土した13~14世紀の平瓦を確認している(図7~13、図版4)。

軒丸瓦は3点あり、いずれも複弁蓮華文軒丸瓦である(7・8、図版4-33)。軒丸瓦(8)は外区が素文で、外区と内区の間圏線が巡る。蓮弁は八葉複弁で、中房には九つの蓮子が配されている。文様は7世紀後半の川原寺式の系譜をひいているが、外区と内区の間圏線が巡るなど、この型式にはない要素がみられる。これらの様相から奈良時代前期のものか。この文様は現在のところ、他寺院での同范・同文の事例は確認できていない。軒丸瓦(7)は残りが悪く詳細は不明であるが、(8)とは蓮弁の大きさが異なるため、違う文様である。

軒平瓦は2点出土した(9・10)。均等唐草文軒平瓦(9)は外区に蓮弁状の文様が施され、瓦当面の厚さは4.0cmである。8世紀後半のものか。均等唐草文軒平瓦(10)は内区中央に「尔(弥)」の文字が描かれる。瓦当面の厚さは4.6cmで、曲線縁である。平安時代後期のものか。「弥」の文字は阿弥陀如来に由来するものと見られるが、本調査地の北西約200mに所在するアミダ遺跡の辺りには小字で「アミダ」の地名が残り、関連あるものか。

丸瓦は無段式と有段式のものが出土したが、無段式と分かるものは(11)のみであった。無段式丸瓦(11)は凸面の叩き目は丁寧にすり消されているが、縁に近い部分は不定方向にカキ

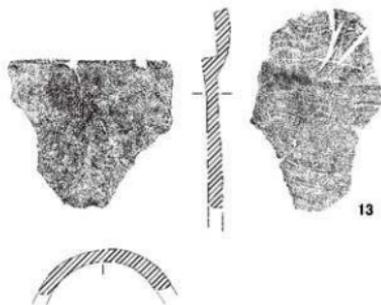
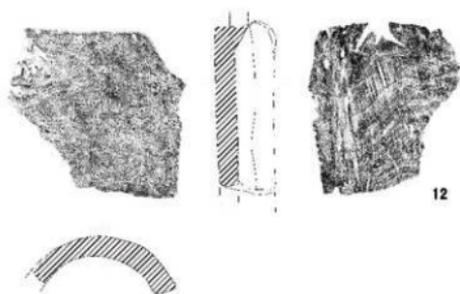
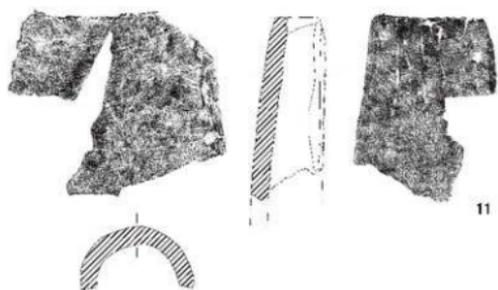


图7 出土遺物实测图(2)

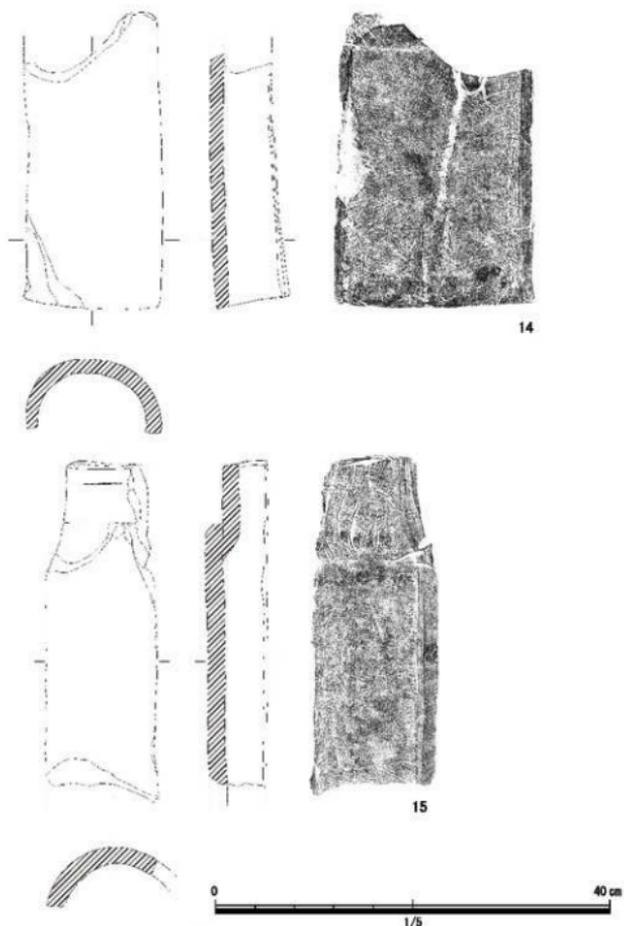


図8 出土遺物実測図(3)

目が残る。胎土は須恵質だがやや軟質である。8世紀代に入るものか。

有段式丸瓦は大きく3タイプに分類できる。a: 胎土が須恵質で硬質、凹面の布目は細かく、凸面は丁寧に叩き目をすり消す。厚みが1.5cm前後で、無段式のものと同様もしくはやや後発のものか(13)。b: 胎土は須恵質だがやや軟質で、細かい砂の離れ砂が使用されている。凹面の布目は細かく、凸面は丁寧に叩き目をすり消す。厚みが1.7cm前後で、8世紀中頃から後半のものか(15)。c: 胎土が軟質で、粗い砂の離れ砂が使用されており、凸面には縄叩き痕が残る。厚みが2.0cm前後である(12)。8世紀後半から平安時代のものか。

平瓦には桶巻きと一枚作りの両方がある。桶巻きには縄叩き痕(20・22・24・25・27・30・

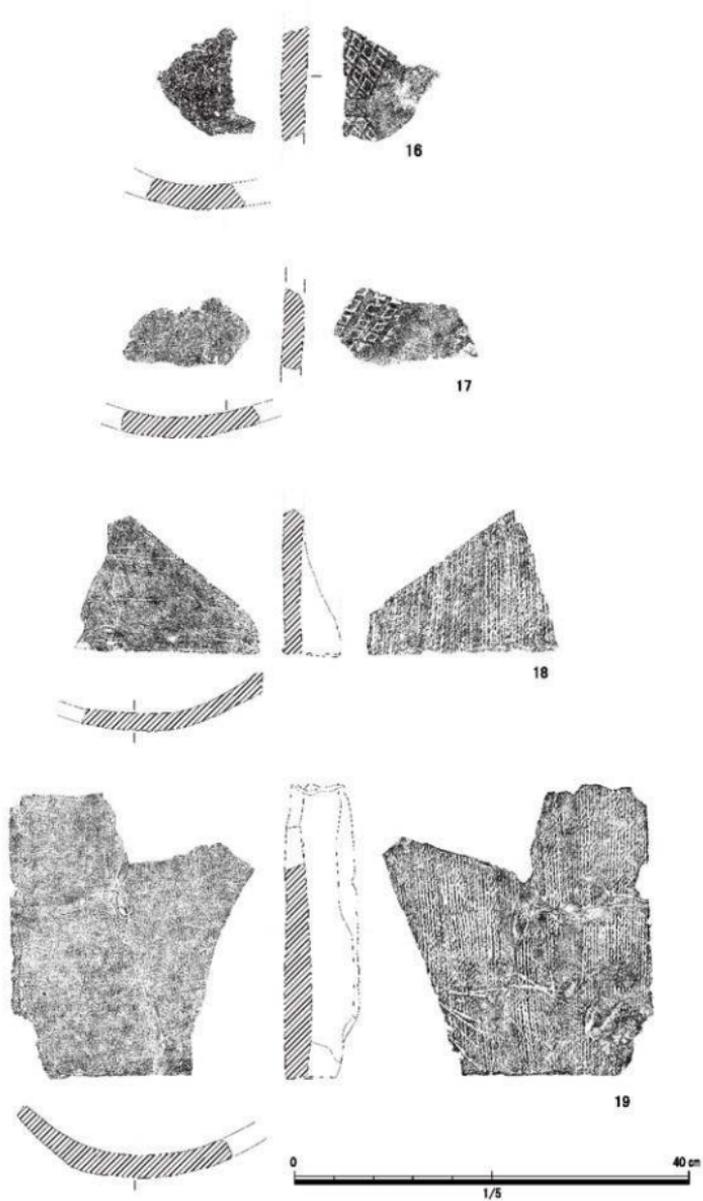


图9 出土遗物实测图(4)

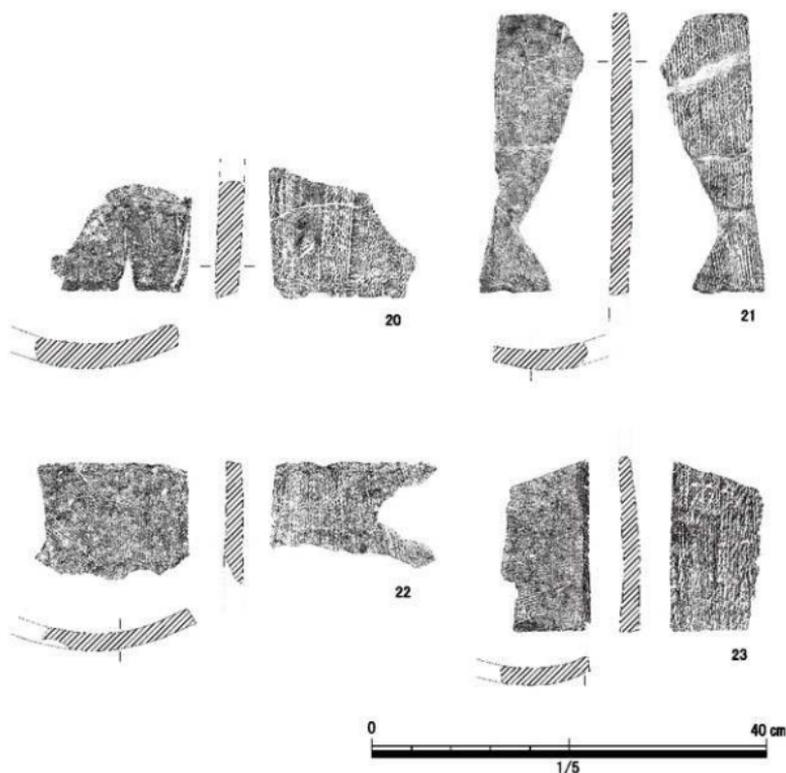


図 10 出土遺物実測図 (5)

32) と斜格子叩き痕の残る瓦 (16・17) があり、桶巻きは縄叩き痕のものが大半で、斜格子叩き痕のものは数点である。全体的に膜骨痕は不明瞭で、曲率は緩い傾向が見られる。斜格子叩きの瓦はいずれも胎土が軟質で、叩きの原体は斜格子の大きさの大小で2種類確認できる。図化した瓦 (16・17) は斜格子の大きなタイプである。平瓦 (32) は桶巻きで、凹面の膜骨痕は明瞭であり、凸面の叩き痕は丁寧にすり消されている。また曲率が大きく、同様の瓦は他に確認できなかった。

一枚作りは縄叩きの縄目が細いものと太いものに大別でき、縄目が細いものは布目が細かく、細かい離れ砂が使用されている (18・19・26・31)。8世紀中頃から後半のものか。縄目が太いものは布目が粗く、離れ砂も粗いものが使用されている (23)。8世紀後半から平安時代のものか。

この他、細片だが平瓦の隅が切られたものが1点出土している。狭端側の隅が切られているが、四隅が切られているかは不明である。

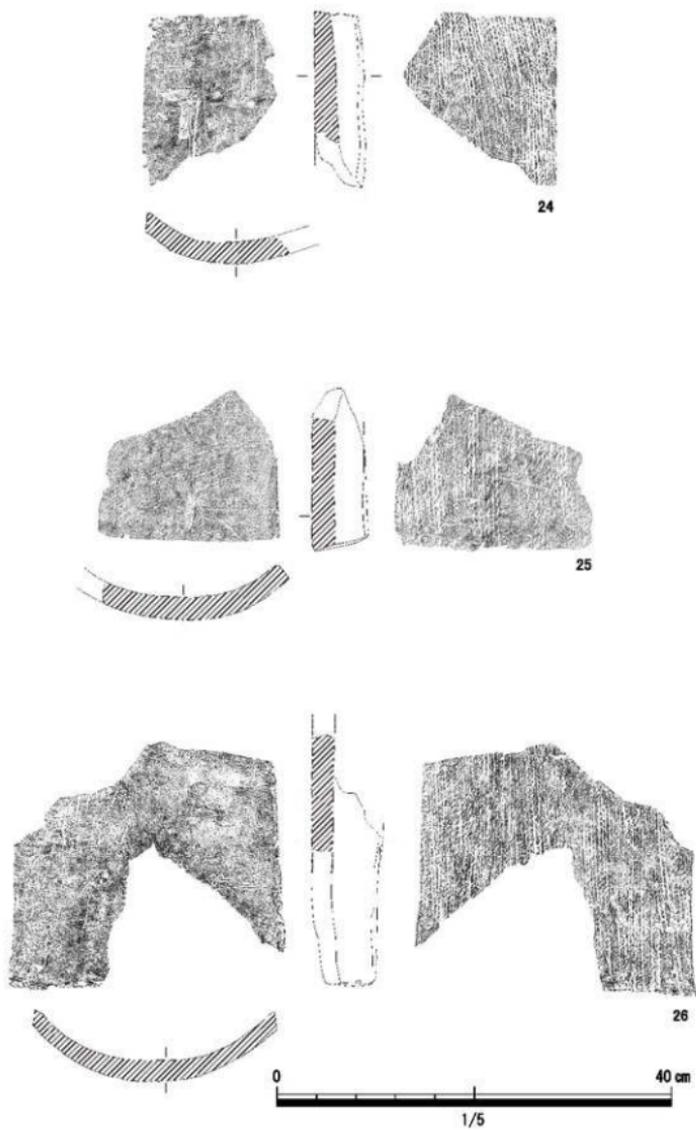


图 11 出土遺物实测图 (6)

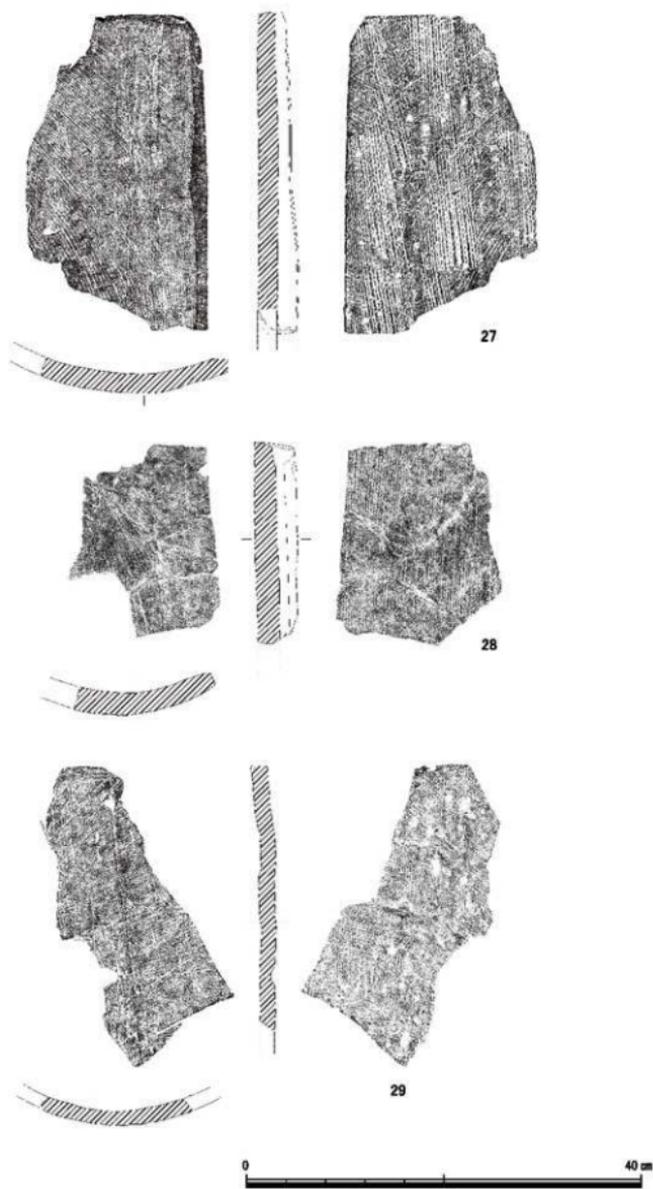


图 12 出土遺物実測図 (7)

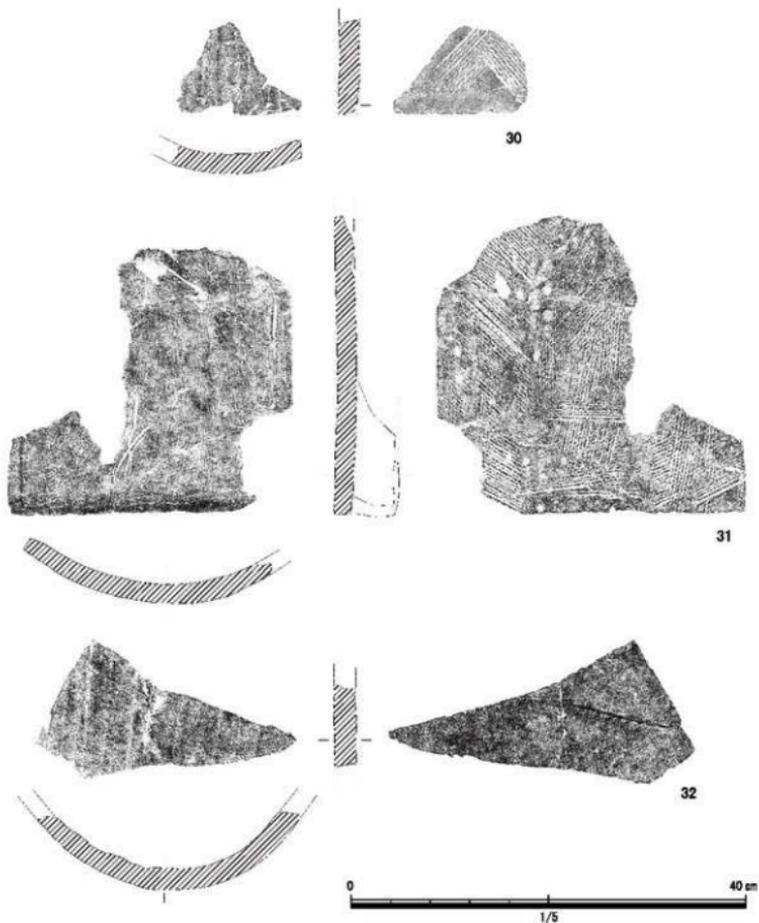


図 13 出土遺物実測図（8）

3) まとめ

今回の調査に際し、調査地の北側隣接地の確認調査で大量の古代瓦が出土していたことが事前情報としてあったことから、錦織院寺との関連性が想定されていた。ただし、その調査では多くの瓦を確認したのみで本調査は行われず、遺跡を保護する工事がなされたため、遺跡の状況は未確認であった。今回の調査においても現代耕作土層を除去すると大量の瓦片が出土し、慎重に精査を行ったが遺構は確認できず、瓦を大量に含んだ地層が厚さ 1 m 以上に及び堆積し

ていることが確認されただけで、遺構は見つからなかった。

調査地は北側の土地より一段下がっており、旧地形も下がっていたと考えられる。そこへ瓦を大量に含んだ土を使って埋め立てが行われたのだろう。しかし、Ⅱ～Ⅷ層それぞれの地層の上面に遺構が認められず、出土遺物からは時期差が認められないこと、地表面の土壌化や風雨などの自然による地層堆積の跡が各地層間に確認できなかったことなど、いつどのような目的でこれらの地層の埋め立てが行われたのか判断としない。また、地層に含まれる大量の瓦がどこから運ばれてきたのかについても、同じ場所から埋め立ての土を運んだのが不明であるため、分からない。調査地周辺では錦織廃寺の他にも細井廃寺の存在が示唆されているが、古瓦が確認されているものの寺院本体の遺構と共に出土しているわけではない。瓦の分布状況も含め、今後とも注意深くデータを集めていかなければならない。とはいえ今回の調査は推定から実在へ、また一歩近づいた調査となった。

【参考文献】

富田林市史編集委員会1985年『富田林市史』第1巻

大阪府教育委員会1985年『大阪府文化財調査概要1984年度』

表4 掲載遺物一覧

挿図番号	掲載番号	実測番号	図版	調査区	地層	取上げ時地層	名称	備考
6	1	30	—	北区	Ⅱ層	1層	須惠器壺	
6	2	31	—	北東区	Ⅱ層	1層	須惠器壺	外面平行叩き
6	3	32	—	北東区	Ⅱ層	1層	東播系鉢	
6	4	27	—	北区	Ⅱ層	1層	肥前陶器灰釉皿	砂目
6	5	3	—	北東区	廃土		瓦器碗	
6	6	26	—	北区	Ⅱ層	1層	土師質土器壺	外面平行叩き、内面刷毛目
6	7	28	図版4	北区	Ⅱ層	1層	軒丸瓦	複蓮弁文
6	8	25	図版4	北区	Ⅱ層	1層	軒丸瓦	複蓮弁文、瓦当径(推)15.6cm
6	9	29	図版4	北区	Ⅱ層	1層	軒平瓦	均等唐草文、瓦当厚4.0cm
6	10	24	図版4	北区	Ⅱ層	1層	軒平瓦	均等唐草文、瓦当厚4.5cm
7	11	20	—	北東区	Ⅳ層	3層	丸瓦	無段式
7	12	21	—	北東区	Ⅴ層	3層	丸瓦	有段式
7	13	19	—	北東区	Ⅵ層	4層	丸瓦	有段式
8	14	22	—	北東区	Ⅶ層	5層	丸瓦	有段式
8	15	23	—	北東区	Ⅵ層	4層	丸瓦	有段式
9	16	4	図版4	北東区	Ⅱ・Ⅲ層	1・2層	平瓦	凸面斜格子叩き
9	17	2	図版4	北東区	Ⅱ・Ⅳ層	1・3層	平瓦	凸面斜格子叩き
9	18	8	—	北東区	Ⅶ層	5層	平瓦	一枚作り
9	19	17	—	北東区	Ⅶ層	5層	平瓦	一枚作り
10	20	7	—	北東区	Ⅶ層	5層	平瓦	橋巻き作り
10	21	13	—	北東区	Ⅵ層	4層	平瓦	橋巻き作り
10	22	6	—	北東区	Ⅵ層	4層	平瓦	橋巻き作り
10	23	5	—	北東区	Ⅴ層	3層	平瓦	一枚作り
11	24	11	—	北東区	Ⅶ層	5層	平瓦	橋巻き作り
11	25	9	—	北東区	Ⅶ層	5層	平瓦	橋巻き作り
11	26	16	—	北東区	Ⅵ層	4層	平瓦	一枚作り
12	27	15	—	北東区	Ⅴ層	3層	平瓦	橋巻き作り
12	28	10	—	北東区	Ⅵ層	4層	平瓦	橋巻き作り
12	29	14	—	北東区	Ⅶ層	5層	平瓦	橋巻き作り
13	30	1	—	北東区	Ⅱ層	1層	平瓦	橋巻き作り
13	31	18	—	北東区	Ⅶ層、Ⅷ層	5・6層	平瓦	橋巻き作り
13	32	12	—	北東区	Ⅶ層	5層	平瓦	橋巻き作り
—	33	—	図版4	北区	Ⅱ層	1層	軒丸瓦	複蓮弁文

報告書抄録

ふりがな	れいむねんど とんだばやししらいせきぐんはつくつちようさほうこくしよ
書名	令和4年度 富田林市内遺跡群発掘調査報告書
副書名	
巻次	
シリーズ名	富田林市文化財調査報告
シリーズ番号	78
編著者名	渡邊 晴香
編集機関	富田林市教育委員会
所在地	〒584-8511 大阪府富田林市常盤町1番1号 TEL. 0721-25-1000
発行年月日	2023（令和5）年3月31日

ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号					
にしこおりいせき	にしこおりひがし	27214	47	34° 28' 57"	135° 35' 15"	20220207～ 20220217	32.1㎡	個人住宅 (記録保存調査)
錦織遺跡	錦織東 二丁目							
にしこおりはいじ	にしこおりひがし	27214	48					
錦織廃寺	錦織東 二丁目							

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
錦織遺跡	集落跡	縄文時代 ～中世	—	平瓦 丸瓦 軒平瓦 軒丸瓦	遺構は確認されなかったが、奈良～平安時代の瓦が大量に出土し、近辺に古代寺院が存在していた可能性が高まった。
錦織廃寺	寺社跡	古墳時代 ～平安			

图 版



南北区Ⅱ層上面 (南より)



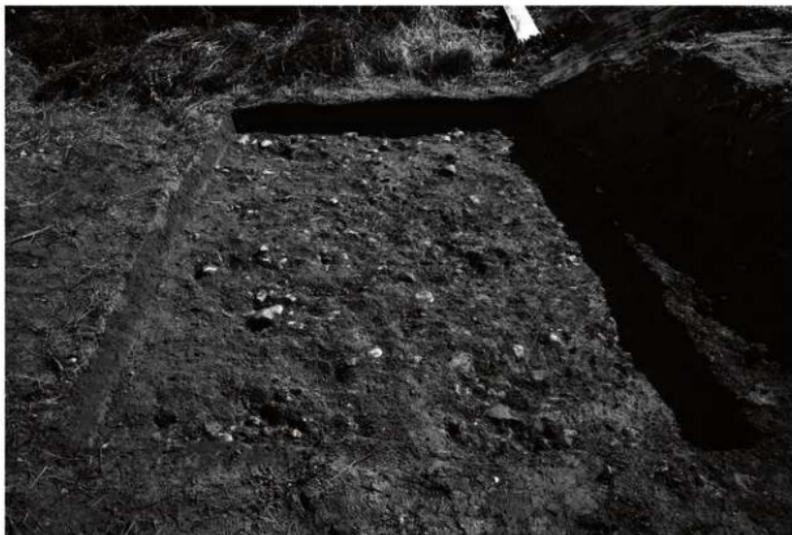
東西区Ⅱ層上面 (東より)



東西区東端深掘り地層断面 (北より)



南北区深掘り地層断面 (東より)



北東区II層上面遺構検出状況 (西より)



北東区東壁断面 (西より)



令和4年度 富田林市内遺跡群発掘調査報告書

発行年月日 2023（令和5）年3月31日

編集・発行 富田林市教育委員会

住 所 富田林市常盤町1番1号

印 刷 明朗社